

認定化学遺産 一覧

- 第001号 杏雨書屋蔵 宇田川榕菴化学関係資料
第002号 上中啓三 アドレナリン実験ノート
第003号 具留多味酸 試料
第004号 ルブラン法炭酸ソーダ製造装置塩酸吸収塔
第005号 ビスコース法レーヨン工業の発祥を示す資料
第006号 カザレー式アンモニア合成装置および関連資料
第007号 日本最初の化学講義録一册百舎密書(ボンベ化学書)
第008号 日本学士院蔵 川本幸民化学関係資料
第009号 日本のセルロイド工業の発祥を示す建物および資料
第010号 日本の板ガラス工業の発祥を示す資料
第011号 眞島利行ウルシオール研究関連資料
第012号 田丸節郎資料(写真および書簡類)
第013号 鈴木梅太郎ビタミンB₃発見関係資料
第014号 日本の合成染料工業発祥に関するベンゼン精製装置
第015号 日本初期の塩化ビニル樹脂成形加工品
第016号 日本のビニロン工業の発祥を示す資料
第017号 日本のセメント産業の発祥を示す資料
第018号 小川正孝のニッポニウム研究資料
第019号 女性化学者のさきがけ 黒田チカの天然色素研究関連資料
第020号 フィッシャー・トロプシュ法による人造石油製造に
関わる資料
第021号 国産技術によるアンモニア合成(東工試法)の開発と
その企業化に関する資料
第022号 日本における塩素酸カリウム電解工業の発祥を示す資料
第023号 日本の近代化学の礎を築いた櫻井錠二に関する資料
第024号 エフェドリンの発見および女子教育に貢献のあった
長井長義関連資料
第025号 旧第五高等学校化学実験場および旧第四高等学校
物理化学教室
第026号 化学技術者の先駆け 宇都宮三郎資料
第027号 日本のプラスチック産業の発展を支えたIsoma
射出成形機及び金型
第028号 日本初のアルミニウム生産の工業化に関わる資料
第029号 早稲田大学蔵 宇田川榕菴化学関係資料
第030号 工業用高圧油脂分解器(オートクレーブ)
第031号 日本の工業用アルコール産業の発祥を示す資料
第032号 日本の塗料工業の発祥を示す資料
第033号 日本のナイロン工業の発祥を示す資料
第034号 日本の写真化学の始祖「上野彦馬」関連資料
第035号 明治期日本の化学の先駆者・化学会初代会長
久原躬弦関係資料
第036号 野副鐵男の化学遺産一非ベンゼン系芳香族
化合物資料と化学者サイン帳

- 第037号 日本の高圧法ポリエチレン工業の発祥を示す資料
第038号 日本の近代的陶磁器産業の発展に貢献した
G. ワグネル関係資料
第039号 日本の油脂化学生みの親一辻本満丸関連資料
第040号 日本の酸素工業の発祥と発展を示す資料
第041号 日本における殺虫剤産業の発祥を示す資料
第042号 近代化粧品工業の発祥を示す資料
第043号 天然ガスかん水を原料とするヨウ素製造設備
および製品木製容器
第044号 グリフィス『化学筆記』およびスロイス『舎密学』
第045号 モノビニルアセチレン法による合成ゴム
第046号 化学起業家の先駆け 高峰譲吉関係資料
第047号 学習院大学南一号館ドラフトチャンバー
第048号 我が国初のNMR分光器用電磁石
第049号 島津製作所 創業記念資料館および所蔵理化学関係
機器・資料等
第050号 銅アンモニウムレーヨン製造装置「ハンク式紡糸機」
および関連資料
第051号 タンパク質(チトクロムc, タカアミラーゼA)の3次構造模型
第052号 日本の近代化学教育の礎を築いた舎密局の設計図
(大阪開成所全図)
第053号 日本初の純国産「金属マグネシウムインゴット」
第054号 日本初の西洋医学処方による化粧品「美顔水」
発売当時の容器3点
第055号 日本の石油化学コンビナート発祥時の資料
第056号 苦汁・海水を原料とする臭素製造設備と磁製容器
第057号 再製樟脳蒸留塔
第058号 日本の放射化学の先駆者 飯盛里安のIM泉効計
第059号 日本の科学技術文献抄録誌の先駆け:『日本化学総覧』
第060号 日本の合成香料工業創成期の資料

公益社団法人 日本化学会

〒101-8307 東京都千代田区神田駿河台1-5

TEL : 03-3292-6163

Mail : chemarch@chemistry.or.jp

URL : <https://www.chemistry.or.jp/>

【表紙の写真】

(上段) 甲斐荘ノート 高砂香料工業 所蔵

(下段左) IM泉効計(昭和前期) 理化学研究所 所蔵

(下段右) 『日本化学総覧』の一部 第1集(1927~1938)

日本化学研究会 所蔵



化学遺産認定 第13回



公益社団法人日本化学会は、化学と化学技術に関する貴重な歴史資料の保存と利用を推進するため、2008年度より化学遺産委員会を設置し、さまざまな活動を行ってまいりました。「化学遺産認定」は、それら歴史資料の中でも特に貴重なものを認定することにより、文化遺産、産業遺産として次世代に伝え、化学に関する学術と教育の向上および化学工業の発展に資することを目的とするものです。本年は第13回として、ここにご紹介する3件を認定いたしました。

公益社団法人日本化学会 化学遺産委員会
2022年3月

日本の放射化学の先駆者 飯盛里安のIM泉効計

飯盛里安(1885-1982)は、1917年に創立間もない財団法人理化学研究所に入所した。1919年から2年間イギリスに留学し、オックスフォード大学のフレデリック・ソディ教授のもとで放射化学を学んだ。帰国後、日本では未開拓の分野だった放射化学の基礎を築き確立させた。放射性鉱物や希元素の研究を生涯続け、戦時中はウラン鉱の探索・採掘・精製を行った。

この間、東京帝国大学理学部化学教室で1922年にスタートした「分析化学」講義の一部を担当、特に1927年以降日本初の「放射化学」講義を1943年まで担当し、「アイソトープ」を「同位元素(同位体)」と邦訳するなどした日本の放射化学の先駆者である。

放射化学の研究の一環で特許化したIM泉効計(IM-Fontactoscope。IMは飯盛の略)は使用法が簡単で測定精度が高く、温泉ブームの時代に、ラジウム温泉、ラドン温泉の認定評価用に重用された。理研の工作係と協力して全国に供給した。現在、理化学研究所にはIM泉効計の初期販売器(昭和前期)および昭和38年製の2台、近傍製品、泉効計部品、泉効計を含む歴代理研製品カタログ、ラドン定量器特許資料一式が保管されている。

これらは日本の放射化学の先駆者飯盛里安の業績と軌跡を偲ばせる資料であり、化学遺産に認定する。



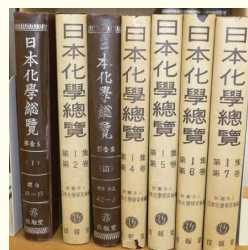
左:IM泉効計(昭和前期)
上:分解した部品一式
(いずれも理化学研究所 所蔵)



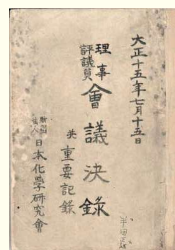
日本の科学技術文献抄録誌の先駆け: 『日本化学総覧』

1911年に東北帝国大学理科大学教授に着任した眞島利行(1874-1962)は、欧米ではケミカル・アブストラクトなどの化学文献抄録誌があるのに対して、国内の研究を抄録誌で調査することができない不便さを感じた。1918年に同大学付属病院の依頼で本邦動植物成分の研究論文の抄録に参加したが、抄録対象範囲の判定が困難などの理由で中断した。この経験から眞島は化学全域の国内文献を全て抄録する必要性を感じた。1921年から同大学化学教室で我が国初の画期的なデータベース構築が始められ、1877年から1920年までの文献の抄録作業が1923年初夏までに完成した。関東大震災により発行は遅れたが、それ以降の文献抄録作業も進め、1926年に編集・発行を担う財団法人日本化学研究会が設立され、1927年に発行を開始した。同研究会が関わった1963年までの抄録数は特許を含めて348,517件、協力した抄録者は一時700人近くに達し、日本の科学技術文献抄録誌の先駆けとなり、現在も『科学技術文献速報(WEB版)化学・化学工業編(国内編)』として継続されている。

同研究会が所蔵している『日本化学総覧』および設立以来の事務関係書類はその歴史を示す貴重な資料であり、化学遺産に認定する。



『日本化学総覧』の一部
第1集(1927~1938)



『理事・評議員会議決録』
大正15年7月15日』



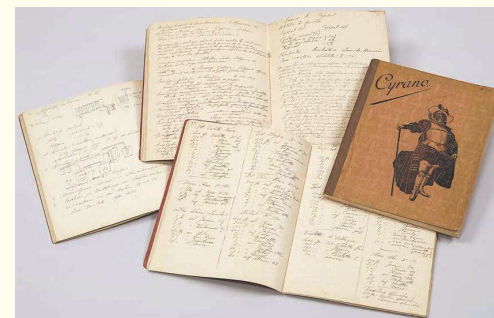
『庶務綴』
昭和27年度・28年度』

(いずれも日本化学研究会 所蔵)

日本の合成香料工業創成期の資料

甲斐荘楠香(1880-1938)は京都帝国大学理科大学純正化学科を卒業した2年後の1906年に久原躬弦教授(化学会初代会長)の下で助教授に任命された。しかし応用化学、とりわけ香料工業に関心が高かったことから休職して1910年に欧州に私費留学した。フランスの天然香料のメッカであるグラス市に下宿して無給で製造職や調合見習いを体験し、さらにスイスの世界最大(現在)の香料会社であるジボダン社で合成香料の開発と調合の研修を行って1913年末に帰国した。1914年に第一次世界大戦が始まり欧州から合成香料の輸入が停止したことから日本で合成香料の本格的な工業化が始まり、甲斐荘も石けん会社丸見屋で合成香料の生産を始めた。しかし休戦とともに生まれたばかりの合成香料工業は苦況に陥り、甲斐荘も5年余勤めた丸見屋を事実上追い出された。甲斐荘は、同じく退職した香料技術者を募って1920年に高砂香料(株)(当時の社名)を創立し、日本最大の香料会社に育て上げた。

高砂香料工業(株)が所蔵する甲斐荘が遊学中に書き記したノート6冊、書簡・絵葉書97点、ジボダン社時代の実験指示書12点、調合香料処方箋30点、丸見屋試験部時代の手帳2冊、帰国後東京大正博覧会を見学した際の出品評価メモ17枚は、日本の合成香料工業創成期を知る貴重な資料であり、化学遺産に認定する。



甲斐荘ノート(高砂香料工業株式会社 所蔵)